

COMPANY NOW

ICT技術者育成の取組み状況 —研修ビジネス子会社の活動状況—

日本コムシス株式会社



キャリアネットワークがレガシーからIPに移行し、現在ではあらゆる企業がクラウドにかかわりをもちながら事業展開する中、日本コムシス(株)は2004年から今後のビジネス拡大に不可欠な次の時代を担うICT技術者の育成に取り組んできました。

そして、2007年には、それまで培った育成ノウハウを広く活用するために、研修ビジネス子会社である(株)NGN-SFを設立し、通建業界やNTTグループ会社の人材育成に貢献してきました。

本稿では、主に技術研修面に焦点を当て、当社内のICT技術者育成の体制づくり、(株)NGN-SFの活動状況、クラウド時代の資格取得などについてご紹介します。

1. ICT技術者育成の体制づくり

2001年10月、IPネットワークに精通する技術者が集結し、COINS (Comsys IP Network Integration Support)プロジェクトが創設されました。

COINSは、最先端技術に取り組むプロフェッショナル技術者集団で、情報通信市場の変革を受け、施工中心の体制から、設計・コンサルティングから保守までのワン・ストップを可能とする体制確立が必須として設立されました。

その後、NTTのNGN構想が打ち出された2004年に当社としても、ICT技術者育成を重要課題と捉え、その育成活動を組織的に進めるために、NGNテクニカルセンタ(当時の“ITビジネス事業本部次世代ネットワーク部”)を新設しました。

レガシー技術に比べて、IP系技術は現場で習得する技術の他に、Config設定やプロトコル解析など、一度机上ですっきりと理論を学習しなければ身に着かない技術が多くあります。また、当時は当社内でIP系技術を体得できる現場がありませんでした。

ちょうどその頃、NTTグループ会

社の現場においてNGN検証業務に通建会社が参加できる仕組みが作られたため、その業務に参加させることにより育成(OJT)を図ることとし、同時に、社内にシスコ・ネットワーク研修のインストラクタをつくり、そのインストラクタによる社内研修(Off-JT)も始め、現場体験と研修の二本立て(車の両輪)で、ICT技術者育成を開始しました。

当初はIPネットワーク技術者の育成が急務であるとの考えから、Off-JT育成ではシスコ資格の最上位であるCCIEの取得を具体的な目標として、

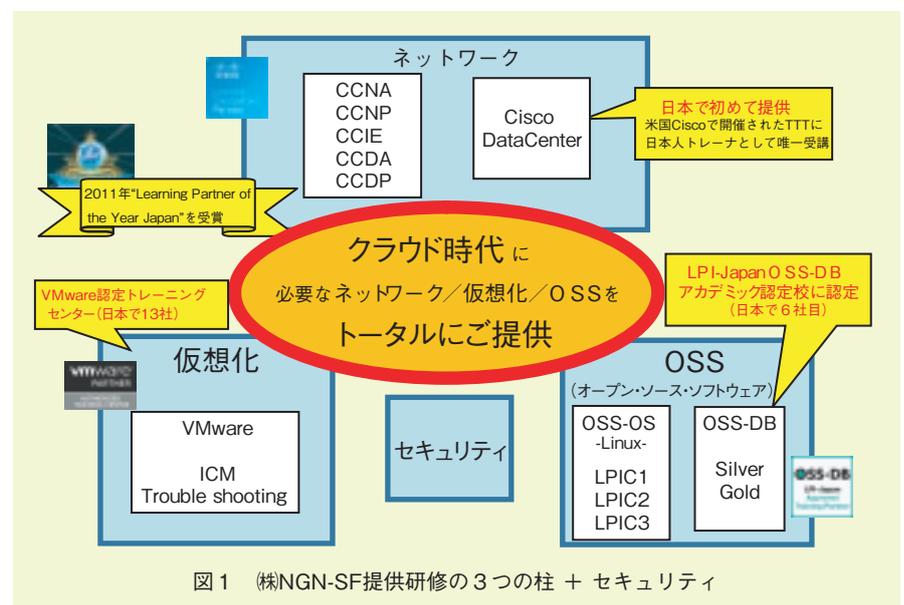
社内研修プログラムを作り、育成を進めました。

2. (株)NGN-SFの設立と活動状況

(1) (株)NGN-SFの設立

社内育成のノウハウが次第に蓄積され、そのノウハウを広く活用するために、NGNテクニカルセンタの研修機能(Off-JT育成)を切り出す形で、2007年4月に(株)協和エクシオ様との合弁により、研修ビジネス子会社として、(株)NGN-SFを設立しました。

会社名のNGN-SFは、“Staff and



support Function for NGN”の略で、当時NTT様が構想されたNGNの普及拡大に向けて、「2010年には3,000人の高度IP技術者集団を世の中に送り出す」というビジョンを掲げてビジネスをスタートさせました。

(2) 研修内容の充実

発足当初はもっぱらシスコ・ネットワーク研修（CCNA/CCNP/CCIE）を提供していましたが、外部の顧客が増加するにつれ、サーバ系技術者育成のニーズが次第に増えてきたことから、2010年までにLinux研修、VMWare研修を相次いで開始しました。現在では、今後のクラウド時代に必要なネットワーク、仮想化、OSS（オープン・ソース・ソフトウェア）の3分野を提供研修の柱とし、さらにこの3つの柱を横断的に支える技術として、各企業が重視しているセキュリティ研修も提供しています（図1）。特にOSSでは、最近の商用データベースからOSSデータベースへの移行ニーズの高まりに合わせ、OSS-DB研修を2012年10月に開始したところで

す。株式会社NGN-SFの研修の特徴は、資格認定研修においては合格までサポートする点と実用向け研修においては実機を用いた実践的な研修を提供する点です。高い合格率を維持するとともに、業務に活かせる実機演習などが好評を得ています。

今後、株式会社NGN-SFでは上記の3分野の技術をトータルに提供することで、クラウド時代に求められるマルチスキル技術者の育成に努めていきます。図2は3分野における各研修のレベルと相互の関係を表したものです。

(3) 顧客拡大

設立当初は株式会社協和エクシオ様と当社の新入社員向けの研修が主でしたが、通建業界やNTTグループ会社を中心

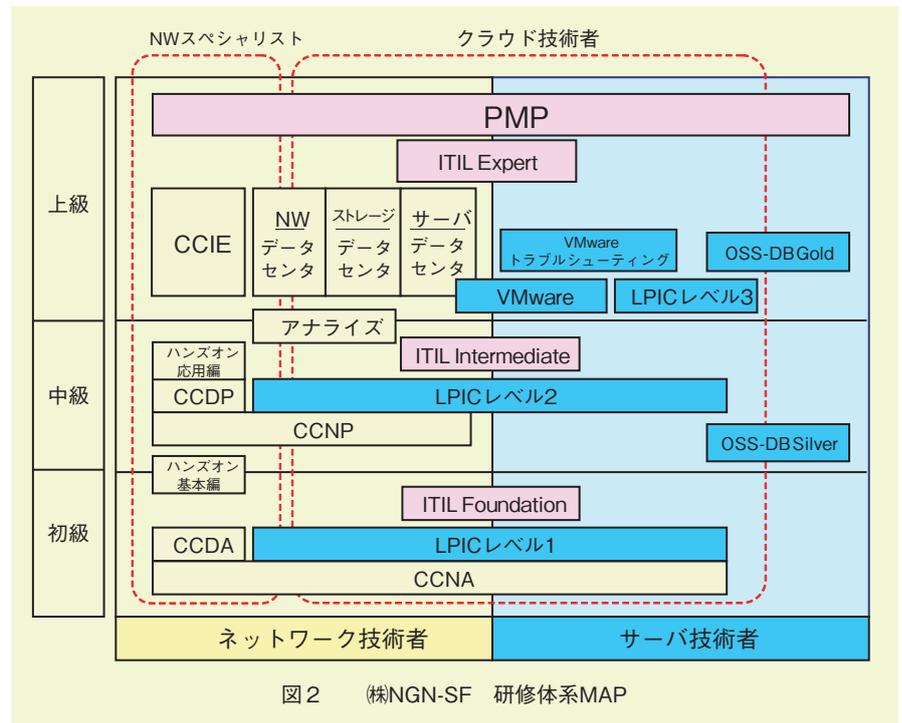


図2 (株)NGN-SF 研修体系MAP

に、次第にお客様の数を増やし、現在では、20社程度のお客様に研修を提供するようになりました。

通建業界に対しては、情報通信エンジニアリング協会様の研修メニューにNGN-SFの研修コースを登録させていただき、各会社から多くの受講生に参加いただいています。個別の営業のみならず、研修関連会社の研修メニューへの登録方式（代理店方式）、さらにはHPを活用した集客方法など、多くの企業が受講できる仕組みを作ってきました。

最近では、米国シスコの世界的な戦略パートナーで、データセンターの最新技術を有するFirefly Communications社と提携し、最新のシスコ・データセンター研修を日本で初めて提供するとともに、シスコ社やパートナー会社の社員の方々にも研修提供の機会を得ています。

(4) 米国シスコ社からの受賞

株式会社NGN-SFの最も特徴的な研修の1つは、CCIE資格取得のためのオリジナル研修です。通建業界を中心にこれ

までに150名以上の合格者を輩出し、その結果、2004年には通建業界に数名しかいなかったCCIE取得者が2010年には160名近くに達し、日本全国の1割以上を占めるに至りました（図3）。

こうした取組みや2010年度までのシスコ研修の実績が評価され、2011年3月、米国シスコ社から日本の最優秀ラーニング・パートナーに与えられる“Learning Partner of the Year Japan”を受賞しました（写真1）。

3. クラウド時代の資格取得

(1) 市場動向

最近、世の中では、案件の多様化、分業しにくい開発の増加、顧客が求めるスピードの増大によって、1人何役もこなすマルチ技術者が求められています。資格取得はこのマルチ技術者を目指し、かつスキルを客観的に証明する重要な手段の1つとされています。

日経BP社が2011年10月に行った資格取得に関するアンケート調査結果によると、ITベンダー認定資格ではデータベース関連資格とシスコ技術者認定資格が上位を占め、また、IT関連団

体認定資格ではPMPやITILなどのマネジメントに関する資格、Linux技術者認定資格などが上位を占めています。

(2) 当社の資格取得の取組み

当社には従来から、ネットワーク系技術を中心に高度資格を取得し、それを業務に活かした社員に対してインセンティブを付与する制度（ICT賞与規程）がありました。昨今の社会ニーズ等を踏まえて、2012年4月にこの制度を見直し、ネットワーク系・サーバ

系・マネジメント系の複数分野の資格を保有し、かつ従来より一段高い技術レベルを有する高度ICTマルチ技術者の育成を図る仕組みを作りました（図4）。

4. 今後の課題

2004年からのICT技術者育成により育った社員は、2012年には300名を超え、今後のビジネス展開に必要な人材として一定の規模に達したと考えられます。

今後の研修面での課題としては、検証業務を終えて各事業本部に配属になった社員がそれまで習得した技術やノウハウを活かして、今後のビジネス展開のリーダーとなるべく、継続的な育成面でのフォローや、レガシー技術社員のスキル転換のための育成カリキュラムの開発などがあります。

前者については、前述のインセンティブ制度の見直しにより、高度ICTマルチ技術者の育成に向けた研修や資格更新者のために効率的なフォロー研修の提供が必要であり、具体的なカリキュラム作りなどを進めています。

後者については、例えば資格に捉われず、「クラウド概要」などのレガシー技術の管理者やリーダーが最小限知っておくべき内容の研修コースが必要であるとの声があり、社内関係者との継続的な議論や市場の研修動向を踏まえながら、必要な研修カリキュラムの開発を今後進めていく予定です。

幸いにも、(株)NGN-SFは外部企業・受講生の研修に対する意見や講義に対する反応、また海外を含めた市場動向を把握できる立場にあります。その立場を活かして、ビジネスを通じて得たさまざまな企業の考え方や育成の動向をできるだけ当社や通建業界にフィードバックすることも今後の重要な仕事です。

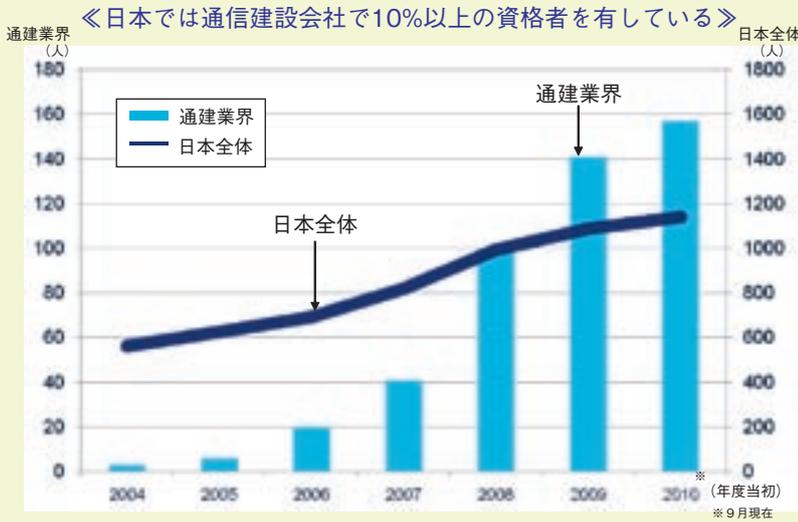


図3 CCIE取得者数の推移



受賞セレモニースライド



ニューオリンズにて受賞

写真1 米国シスコ社から“Learning Partner of the Year Japan”を受賞



受賞トロフィー

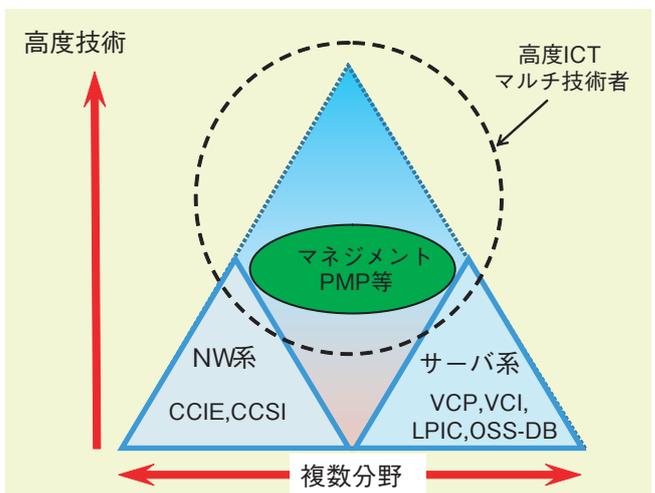


図4 今後の技術者育成ターゲット